

# アトリエ 琉游舎 だより 17号

2018年1月4日発行

アトリエ琉游舎 [ryuyusha.com/](http://ryuyusha.com/)  
琉游舎for healing <https://toi101izuru.wixsite.com/mysite-3>



## 謹賀新年



- ★今年もみんなで作る琉游舎をよろしく願いいたします
- ★昨年に引き続き読書会 詩話会 映画会をやっていきます
- ★また写経会などの新たな企画も考えています 皆さんのこんなことしたいあんなことやりたいがあったらお知らせください

### 1月・2月の映画スケジュール

1/11 木	13時半	お茶漬けの味 (115分)	小津安二郎監督、地方出身の素朴な夫と夫にうんざりする上流階級出身の妻、二人のすれ違いと和解が描かれる。
1/18 木	13時半	学校Ⅲ (133分)	山田洋次監督、大竹しのぶ、小林稔待主演。自閉症の息子を育てる母親が再就職のために通う職業訓練校での中年男女の出会いと心の再生の物語。
1/25 木	13時半	アラバマ物語 (129分)	グレゴリー・ベック主演 1962年アカデミー賞主演男優賞受賞作。偏見の多い南部の町で真の弁護士を演じた社会派ドラマ。
2/1 木	13時半	ひとり息子 (87分)	小津安二郎監督、女手ひとつで息子を育て大学進学のため、学費を捻出して東京へと送り出しているはずが夜学教師として妻子と貧しい生活を送っていることを知り愕然とする母親。
2/8 木	13時半	同胞 (127分)	山田洋二監督、倍賞千恵子、寺尾聡主演。東京と過疎の村の若者たちが故郷のために青春の力を捧げる、1975年日本の農村の若者たちの夢実現の物語。
2/15 木	13時半	陽のあたる場所 (122分)	エリザベス・テーラー、モンゴメリー・クリフト主演。57年度アカデミー賞監督賞受賞作品。貧しい生まれながら野心ある男の出世の過程の果てに起こる恋愛悲劇。
2/22 木	13時半	ダウンタウンヒーローズ (120分)	山田洋二監督、薬師丸ひろ子、中村橋之助主演。昭和23年最後の旧制高校生たちの輝ける自由と未来の日々。城下町松山を舞台にした青春映画。

★次回読書会は  
1月9日（火）13時半から

★次回詩話会は  
1月13日（土）13時半から

- ・今年も法華経を声を出して読んでいきます。
- ・法華経の全文の現代語訳やお釈迦様の言葉についてもお話ししていく予定です。
- ・どこからでも、いつからでも参加できます。皆さんの参加をお待ちしています。

- ・詩人高橋順子の詩を取り上げます。
- ・夫で直木賞作家故車谷長吉の良き理解者・編集者の傍ら、詩やエッセイの数々を送り出した女流詩人です。
- ・皆さんの参加をお待ちしています。

## 狂言綺語・・・中心について

2018年、新年明けましておめでとうございます。

元旦は365日で太陽のまわりを回る地球が、また新年という出発点に立って365日を新たにやり直す日です。24時間の1日を毎日365回繰り返してやっと1年たったと思ったら、また繰り返しの出発点に戻って来てしまったと思うか、その繰り返しのように見える日常は、らせん状に上昇して昨日と違った24時間、昨年と違った365日が始まる日と考えるか、天と地との差であることは言うまでもありません。地球は自らの地軸を中心にして24時間を一回転し、太陽を中心として1年を廻っています。それでは私たちは何を「中心」に1日を繰り返し1年を繰り返し、一生を繰り返しているのでしょうか？

「自灯明、法灯明」という仏教用語があります。弟子たちがお釈迦様の死を間近にして「お釈迦様が亡くなられたあとは私たちは何を頼りに生きていけば良いのでしょうか？」と心配していると、お釈迦様は「自らを灯明とし、自らを頼りとし、他のものに依存しないで生きなさい。法（真理）を灯明とし、法を頼りとし、他のものに依存しないで生きなさい。」と言われたと伝えられています。

「他人の権威に寄りかからず、自分で考え自分で何が正しいかを見定め、自分の判断で行動しなさい。その判断基準は『法（真理）』つまり物事のありのままの姿をありのままに捉えることです。」とされているのです。「灯明」とは真実を照らす大いなる明かりであり、それは他から与えられる明かりではなく自らが自らを照らす明かりとなりなさいと教えているのです。この教えは一見分かりやすくなるほどと思えますが、これは仏教の根本に関わるとても重要な教えではないかと私は考えます。

原始、人類は太陽を中心とし、頼りとし、神とし、生きてきました。太陽は人類共通の信仰と崇拜の対象であり「中心」であり「大いなる灯明」であり「真実」であり「神」であったのです。原始的な信仰形態は人間社会の形成と複雑化の過程の中で、それぞれの民族、自然、社会形態に合った宗教を生み出してきました。信仰対象は「太陽」から「唯一神」、「超越者」、「ヤハウェ」、「ロゴス」、「聖書」、「アッラーフ」、「コーラン」、「久遠実成の釈迦牟尼仏」、「法華経」など言葉や対象を変え人々のあいだで分化してきましたが、その対象は「信仰」を必要としているひとたちのそれぞれの「中心」であることには変わりはないのです。

学問的な検証も哲学的な思惟も経ない結論で反論も多いかと思いますが、私は信仰の本質は崇拜すべき「中心」を持つことだと考えます。「中心」は「柱」や「核」と言い換えても良いかもしれませんが、それは私たちが揺るぎないもの、変らないものとして、頼り、寄りかかり、信じ、預け、投げ出すことのできる、確固たる「中心」です。私たちの日常はその中心に向かって同心円状に生活し、その中心との距離を縮めていき、その中心といつかは必ず一体化できることを信じて生活しているのです。それが信仰を生きることの本質ではないのでしょうか？私にとって「中心と一体化する」ことは「やすらぎのところにたどりつく」ことです。信仰対象つまり中心をどこに置くかによってそれは天国であったり西方浄土であったり救いの日であったりするのでしょうか。

「自灯明、法灯明」に戻ります。今までの話の流れからすると「灯明」は「中心」です。とすればお釈迦様は「自らが中心になりなさい」と言っているように私には聞こえるのです。これは大変なことです。信仰は信ずることであり何かに頼ることであると思っていたら、お釈迦様は他のものに頼るな、自らを頼りませよと言っているのです。せっかくお釈迦様に頼ろうと思っていたのに、私が死んだら「法」と「自ら」以外に頼るなど言っているのです。しかもその「法」は自らがありのままの姿をありのままにとらえることによって捕まえるものだと言っているのです。さて自らが中心となる、という大それたことを考えることも行うこともできないと思っているから、信仰があると思っていたのに、何か突き放されたような気持ちにもなりますね。どうしたものでしょう。

私はこのようなときはシンプルに考えるようにしています。お釈迦様の言葉を素直に聞くことです。私たちの自らの灯明は吹けば消えてしまうような、はかない心許ない灯明かもしれません。でもその灯明を常に消さずにともし続け、その灯明の指し示すところが中心であると信じて「行い」を続ければ、必ず「中心」にたどり着くことができると信じるのです。ときには消えてしまったと見えるかもしれませんが、他人の示す灯明の方が明るく魅力的に見えることがあるかもしれません。それでも今、自らが照らし出す灯明の場所が、今の自分自身の中心であると信じて、24時間・365日の日常を過ごすこと、自分がどこに立っているかと、今自分が立っている

場所が、今の中心だと信じること。私はこれを今年の「行い」の灯明として、当たり前の日々を、当たり前で過ごしていきたいと思えます。本年もよろしくお願ひいたします。（出琉）

琉游舎：戸井 出琉・恭子

お問い合わせ先：0287-53-7848 08033508152

矢板市大槻2319-17 コリーナ矢板C-850

アトリエ琉游舎 ryuyusha.com/

琉游舎for healing <https://toi10izuru.wixsite.com/mysite-3>